

2018年1月21日（日）

「新春『府中寄席』三笑亭可龍の落語会」

第十回 新春府中寄席「三笑亭可龍の落語会」
をルミエール府中1階コンベンションホール飛鳥
C・Dにて開催いたしました。

落語会は毎年多くの方が楽しみにされているイ
ベントです。

ほぼ満席となった和やかな雰囲気の会場に、端
正な出で立ちの可龍師匠が登場。「私は府中市出身
でして」と話し出した可龍師匠に観客の関心が集
まります。



小さなお客様も大事にされる可龍師匠は、
男の子に小噺をひとつ披露されました。

「へえー、きみは落語が好きなのかい。
じゃあ、ウルトラマンは好きかい？」

男の子が頷くと、可龍師匠は「ウルトラ
マンがヤクルトを飲んでいるって知ってる
かい？」と掛け合いました。もちろんオチ
は、「ジョア！」

可龍師匠はお客様に合わせて演目を決める噺家さんです。最近のニュー
スやご自身の講演活動を織り込んだ小噺で観客の心を掴んだところで、「今
日の皆さんのツボが分かりました！」と、お題が発表されました。

選ばれた演目の一つめは「桃太郎」。

「桃太郎」は、子どもを寝かしつけるために父親が子供に「桃太郎」
を語った、というお話です。早く寝かしつけたい大雑把な性格の父親と、
物語の細部が気になって質問せずにはいられない論理的な子どもの
やりとりが絶妙な、楽しいお話です。





休憩を挟んで後半は「強情炎」と「締め込み」の2本立て。お人好しの泥棒が登場するお話です。仲の良い夫婦が泥棒の仕業のせいで仲違いしてしまうのですが、身を潜めていた泥棒がそれを聞き慌ててしまいます。

落語の演目には縁起を担いで、まぬけな泥棒の話が多く出て来るそうですが、つつい笑いが噴き出る面白いお話です。

観客の方々から「声も大きくよく通り、はっきりとして、テンポよく話が進みます」「つつい話に引き込まれて、久しぶりに大笑いしてしまいました」と感想をいただきました。

小唄の合間に演技や小道具の解説もありました。唄手は顔の向きや仕草で大勢の登場人物を演じ分けます。また、身に付けている扇子と手ぬぐいは、本や刀など様々な小道具を表現します。その手法は何となく知ってはいても、目の前で本物を見ると感動もひとしおでした。



「すぐ目の前で、真剣に身振り手振りよく話してくださるので、何もかも忘れて話にのめり込めて、楽しい時間を過ごせた」とのお声もいただきました。

新春の日曜日、心の洗濯ができて、晴れやかな気持ちになりました。

